

水稲品種「ゆめまつり」の高品質安定生産技術

研究のねらい

「ゆめまつり」は、平成21年度に奨励品種(認定)に採用した新品種で、平成22年度から邑楽館林地域に先行して導入され、平成24年度には約130haが作付されています。平成23年度末には奨励品種に昇格したことから、今後、作付け地域の拡大、作付面積の増加が見込まれる品種です。そこで、本品種の高品質安定生産に寄与するため、適正な施肥量および収穫適期について明らかにしました。

技術の特徴

- 1 施肥量は、基肥窒素量6kg/10a、追肥窒素量(穂肥)2kg/10a程度とします。安定した収量を得るには追肥の効果が大きく、無追肥では低収量となります。追肥窒素量が多いとタンパク質含量が高くなり、食味が低下する傾向にあります(図1)。

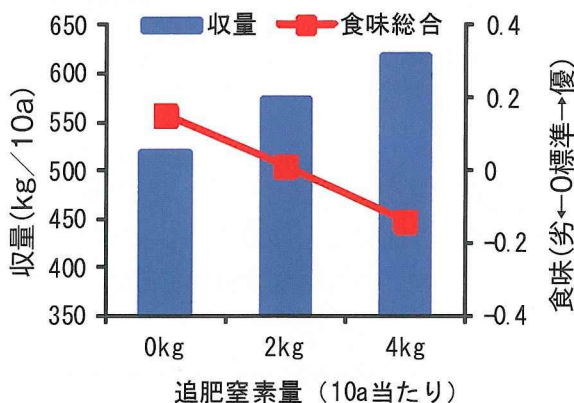


図1 追肥窒素量と収量および食味の関係

- 2 収穫適期は、出穂期からの日平均気温の積算温度1,000℃~1,150℃までとします。コンバイン収穫が可能となる籾水分25%を下回るのは積算温度1,000℃の時です(図2)。また、積算温度1,000℃に対応する帯緑色籾歩合は約20%です(図2)。外観品質は積算温度1,150℃までは比較的良好で

す(図3)。

収穫適期は、年次により前後するので、積算温度、籾水分、帯緑色籾歩合など総合的に判断して収穫します。

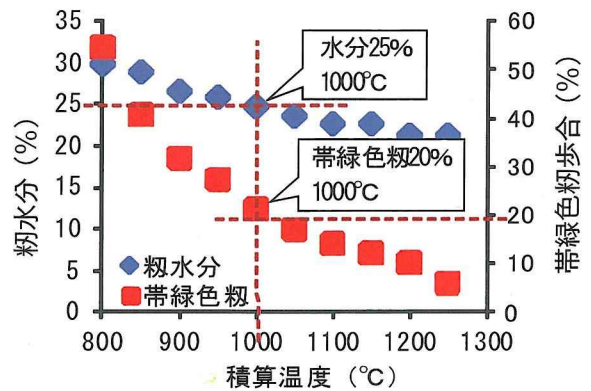


図2 積算温度と籾水分および帯緑色籾歩合の関係

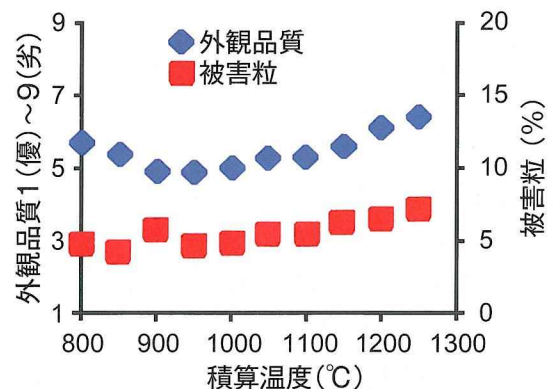


図3 積算温度と外観品質および被害粒の関係
注) 東部地域研究センター(館林市、標高17m) 6月上旬移植(稚苗)による早植栽培

今後の取り組み

県内平坦地において、「ゆめまつり」の導入を検討している地域もあり、作付が広域的になります。異なる地域や作期等に対応した高品質安定生産技術の確立に向け、関係機関と連携して取り組みます。

(執筆者: 廣岡 政義)